

## 今秋公開される吉永小百合の映画

今秋公開される吉永小百合主演の映画「ふしぎな岬の物語」は現在千葉県南房総でロケ中です。

「笑っていいとも」のフィナーレでは小百合は南房総のロケ地からエールを送っていました。

この映画の原作は森沢明夫の小説「虹の岬の喫茶店」です。

この小説のモデルになった喫茶店は千葉県安房郡鋸南町元名 1 にある「音楽と珈琲の店 岬(みさき)」です。

鋸山が浦賀水道にせり出す明鍾(みょうがね)岬の突端にぽつんと立っている吹けば飛ぶそうな喫茶店です。昔はトンネルも無かった為この岬は館山から千葉市に通じる内房街道の交通の難所でした。

この喫茶店、実は筆者の馴染みの店で8年前から通っています。

何しろ昭和の香りがする雑然とした店でジャズのレコードが似合う紫煙立ち込めるお店で、嫌煙家の方はまずはいれないでしょう。壁にあったジェームス・ディーンの写真が印象的です。

3年前にだるまストーブから出火し、強風に煽られてたちまち灰になりましたが、すぐさま常連客によって再建されました。何しろ風の強いところです。

常連客がだるまストーブの薪を持ってきてくれるそうで、名物のコーヒーは鋸山の水を使っています。

この店の女主人公 悦子を吉永小百合が演じます。このママさんの甥っ子を阿部寛、恋人役を笑福亭鶴瓶が演じます。この明鍾岬は小説では鯛の釣り場として紹介されていますが、筆者は鰯とメジナとカサゴしか釣った経験がありません。



話題になっていたので先週この喫茶店を訪れましたが、元在った喫茶店は綺麗さっぱり取り潰されており、代わりに喫茶店のセットが建ってありました(左の写真)、ただ別のところにプレハブの喫茶店と撮影用のプレハブが隣接して建っており、このプレハブの喫茶店でいつものようにママさんが営業していました。

既にここでの撮影は完了し、現在は南房総市でロケ中との事でした。ママさんの話から小説の裏話を少し聞きましたので紹介します。

小説のかなりの部分は本当の話。

甥っ子の浩司やほのかな恋人タニさん等も実在らしい？

送り迎えする犬はフィクション etc,etc、……

右の写真はロケした時に一緒に撮った写真。額にあった写真をママさんの許しを得て撮りました。

やはり小百合は素敵、ため息が出そうです。ロケはほかにも館山、勝浦など千葉県各地で行われているため、千葉県の宣伝に一役買うとの話で森田知事もロケ地に表敬訪問し、この映画に千葉県としても全面的に協力しています。

タモリよりも勝るとも劣らないサヨリストの筆者にとって、封切りが待ち遠しい今日この頃です。



(総務幹事 丸山 雅夫)